

令和2年度継続課題に係る継続評価書

- 研究機関 : (株)KDDI 総合研究所、東北大学、住友電気(株)、古河電工(株)、
日本電気(株)、(株)オプトクエスト
- 研究開発課題 : 「新たな社会インフラを担う革新的光ネットワーク技術の研究開
発」 課題Ⅱ マルチコア大容量光伝送システム技術
- 研究開発期間 : 平成 30 年度 ～ 令和3年度
- 代表研究責任者 : 森田 逸郎

■ 総合評価 : 適

(評価点 20 点 / 25 点中)

(総論)

前回継続評価時の指摘事項に適切に対応し、実施計画・アウトカム目標達成のための取り組みには、優れた点もあり、全体として研究は順調に進捗している。次年度以降の研究開発目標やアウトカム目標の達成に向けた実施計画も適切であり、今後も期待できる。

(コメント)

- 引き続き努力している。ぜひ継続してもらいたい。
- 実施計画・アウトカム目標達成のための取り組みに一部優れた点が認められ、全体として順調に進んでいると判断し、継続「適」と評価する。
- 研究計画は順調に進捗しており、次年度以降の研究開発目標やアウトカム目標の達成に向けた実施計画も適切で、マルチコア伝送技術の国際競争力の向上、光通信分野のブレークスルーにつながる成果が期待できる。また、前回評価時の指摘事項に適切に対応し、目標を大きく上回る特許出願、論文発表を行ったことは評価できる。
- 順調に進捗している。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

計画通りに今年度の目標を達成できる見込みであり、知財・論文等については目標を大きく上回る実績が認められる。また、ケーブルオーナーとの意見交換を通して、アウトカム目標の達成に向けて積極的に取り組んでいる。

(コメント)

- 大手ケーブルオーナーからの問い合わせを受けて議論を重ねている。
- 対外発表において、一部大幅に目標を上回っている点は評価できる。
- マルチコア伝送方式実現のための基礎実験を実施するなど、計画通りに今年度の目標を達成できる見込みである。また、知財・論文等については目標を大きく上回る実績があり、ケーブルオーナーとの意見交換の機会を設定するなど、アウトカム目標の達成に向けて積極的に取り組んでいる。
- 技術開発は当初目標を達成見込みである。
- 論文発表は大学以外の担当者を含め、目標を上回る。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

予算計画書に則り適正な執行が行われており、適切な支出変更を行いながら、有効かつ効果的に執行されている。

(コメント)

- 適切な支出変更理由に則り、研究資金は有効かつ効果的に執行されている。
- 特に問題はない。
- 計画通りに使用されている。
- 当初計画どおりである。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

運営委員会を年複数回開催しており、受託者間の緊密な連携のもと、実行可能な実施計画が有効かつ効率的に組まれている。また、ケーブルオーナーとの意見交換やマルチコアファイバの試験敷設を行うなど、アウトカム目標の達成に向けた取組みは十分に評価できる。

(コメント)

- 引き続き運営委員会を年複数回開催しており、情報の共有に努めている。
- ケーブルオーナーとの会合を通して本プロジェクトの重要性訴求・理解を広げており、またマルチコアファイバの試験敷設を実現できた点を高く評価する。
- 受託者間の緊密な連携のもとに実行可能な実施計画が有効かつ効率的に組まれており、ケーブルオーナーとの意見交換を継続的に実施し、マルチコア伝送技術の早期社会実装を目指すなど、アウトカム目標の達成に向けた取組みは評価できる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

研究開発の実施計画と整合性の取れた予算計画が、当初の計画どおり、無駄なく効率的に組まれている。

(コメント)

- 研究開発実施計画と整合した予算計画が無駄なく、有効かつ効率的に組まれている。
- 特に問題はない。
- 当初計画に沿って今後の予算も立案されている。
- 当初計画通りである。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

必要な人員が必要に応じて配置されており、受託者間の連携も密に取れている。また、本研究開発内容に精通した実績を豊富に持つ研究者による実施体制になっており、アウトカム目標の達成に向けた管理体制も適切である。

(コメント)

- 特に問題はない。
- 必要人員を必要に応じて適切に配置している。
- マルチコア伝送技術や光海底ケーブル技術に精通した実績豊富な研究者による実施体制になっており、アウトカム目標の達成に向けた管理体制も適切である。
- 受託者間の連携(役割分担)はよくとれているように見受けられる。